

# 沼

芥川龍之介

青空文庫



おれは沼のほとりを歩いてゐる。

昼か、夜か、それもおれにはわからない。唯、どこかで蒼鷺あをさぎの啼く声が出たと思つたら、蔦つた葛かづらに掩おほはれた木々の梢こすゑに、薄明りの仄ほのめく空が見えた。

沼にはおれの丈たけよりも高い芦あしが、ひっそりと水面をどぎしてゐる。水も動かない。藻もも動かない。水の底に棲すんでゐる魚も——魚がこの沼に棲んでゐるであらうか。

昼か、夜か、それもおれにはわからない。おれはこの五六日、この沼のほとりばかり歩いてゐた。寒い朝日の光と一しよに、水の匀にほひや芦あしの匀あしが、おれの体を包んだ事もある。と思ふと又枝えだ蛙かはづの聲が、蔦つた葛かづらに蔽おほはれた木々の梢から、一つ一つかすかな星を呼びさました覚えもあつた。

おれは沼のほとりを歩いてゐる。

沼にはおれの丈たけよりも高い芦が、ひっそりと水面をどぎしてゐる。おれは遠い昔から、その芦の茂つた向うに、不思議な世界のある事を知つてゐた。いや、今でもおれの耳には、*Invitation au Voyage* の曲が、絶え絶えに其処そこから漂ただよつて来る。さう云へば水の匀あしや芦の匀あしと一しよに、あの「スマトラの忘れな艸くさの花」も、蜜のやうな甘い匀あしを送つて来はしない

であらうか。

昼か、夜か、それもおれにはわからない。おれはこの五六日、その不思議な世界に憧あこがれて、蔦つた葛かづらに掩おほはれた木々の間あひだを、夢ゆめ現うつのやうに歩いてゐた。が、此こ処こに待つてゐても、唯ただ芦あしと水とばかりがひつそりと拈ねがつてゐる以上、おれは進んで沼の中へ、あの「スマトラの忘れな艸くさの花」を探ゆしに行ゆかなければならぬ。見れば幸さいはひ、芦あしの中から半なかば沼へさし出てゐる、年とし経へた柳やなぎが一株ある。あすこから沼へ飛びこみさへすれば、造ざう作さくなく水の底にある世界へ行ゆかれるのに違ちがひない。

おれはどうとうその柳の上から、思おもひ切きつて沼へ身を投げた。

おれの丈たけより高い芦あしが、その拍ひやう子しに何なにかしやべり立てた。水が眩つぶやく。藻もが身みぶるひをする。あの蔦つた葛かづらに掩おほはれた、枝えだ蛙かはづの鳴なくあたりの木々さへ、一時はさも心配さうに吐と息いきを洩もらし合あつたらしい。おれは石のやうに水底みなそこへ沈しみながら、数限りもない青い焰えんが、目まぐるしくおれの身のまはりに飛びちがふやうな心もちがした。

昼か、夜か、それもおれにはわからない。

おれの死骸しかいは沼の底なめらの滑なめな泥かに横よこはつてゐる。死骸の周圍まわりにはどこを見ても、まつ青さな水みづがあるばかりであつた。この水の下にこそ不思議な世界があると思つたのは、やはりお

れの迷まよひだつたのであらうか。事によると Invitation au Voyage の曲も、この沼の精が悪戯いたづらに、おれの耳を欺だましてゐたのかも知れない。が、さう思つてゐる内に、何やら細い茎が一すぢ、おれの死骸の口の中から、すらすらと長く伸び始めた。さうしてそれが頭の上の水へやつと届いたと思ふと、忽ち白い睡蓮すいれんの花が、丈の高い芦に囲まれた、藻の匂のする沼の中に、てきれき的あこがと鮮な荅あざやかを破つた。

これがおれの憧あこがれてゐた、不思議な世界だつたのだな。——おれの死骸はかう思ひながら、その玉のやうな睡蓮すいれんの花を何時いつまでもちつと仰ぎ見てゐた。

(大正九年三月)



# 青空文庫情報

底本：「筑摩全集類聚 芥川龍之介全集第四卷」筑摩書房

1971（昭和46）年6月5日初版第1刷発行

1979（昭和54）年4月10日初版第11刷発行

入力：土屋隆

校正：松永正敏

2007年6月26日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

# 沼

芥川龍之介

2020年 7月17日 初版

## 奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>